

災害医療の標準化

～人材育成とARCHプロジェクト～

災害医療人材育成のあり方について皆さんとともに考えます

災害医療は、災害で発生する保健・医療・福祉のニーズと、供給できる資源のバランスがとれないことで大きなリスクを抱えています。防災とは災害リスクを減らすこと（Disaster Risk Reduction）であり、災害に対応できる人材育成は防災の大きな柱です。

災害で発生する医療ニーズは災害ごとに大きく異なり、対応者は想定外にも対応できるための柔軟性と自らの安全性を守るためのスキルが必要です。そのための教育を受けた緊急医療チームをEMTと呼び、わが国では日本DMATをはじめとしてさまざまなチームが養成されています。また、国際的な医療支援を行うチームは国際EMTと呼ばれ、WHOにより標準的な機能が定められています。

私たちの研究室では、WHO神戸センター、香港中文大学と共同で災害保健医療の人材育成に関する研究を行っています。また、ASEANで災害時の保健医療管理を標準化するためのProject for Strengthening the ASEAN Regional Capacity on Disaster Health Management（ARCHプロジェクト）を紹介しながら、災害に強い医療体制についてともに考えたいと思います。



東北大学災害科学国際研究所
災害医療国際協力学分野 教授

江川 新一 先生

東北大学消化器外科准教授のときに東日本大震災対応。2012年から災害医療国際協力学分野教授。東北大学病院BCP委員会副委員長。NPO法人民陵協議会理事・事務局長。

2021年10月21日（木）
16:00～17:30

WEB 開催
（ZOOM）

本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目の授業として振替可能です

お申し込み・お問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所
「災害と健康」プロジェクトユニット

<http://www.irides-pudh.med.tohoku.ac.jp>

